



エル・エンジェルボランティア便り

発行所

NPO エル・エンジェル国際ボランティア協会

〒243-0406

神奈川県海老名市国分北二丁目1番16号

tel 046-236-0001 fax046-236-0002

<http://www.l-angel.org/>

東日本大震災支援の続き

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

震災から五か月が過ぎましたが、被害の深刻さを増しているように思います。最初、4月5日・6日・7日に現地入りした時は物資不足が深刻でした。食べ物・ガソリン・毛布がなく、寒くてひもじくてみんな震える思いのようでした。2度目、5月23日・24日・25日は心のケアを目的として訪ねました。3度目、6月13日・14日・15日は夏物の物資等々をお届けして参りました。日が経つにつれ頑張ろうとする人達とケアが必要な人達と紙一重のような気がするしまた大きく隔たっているような気もしました。今後どのような支援の方法があるか皆様のお知恵をお願いしたいと思います。私達が目にした現地の状況を少しながらお知らせ致します。



義援金及び支援物資をお寄せ頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

奉仕は自分を高める行為である。自信は自分を愛するようになり、究極は自己実感認識へ導かれる。このように、奉仕の受け取り手は汝自身であることを知るがよい。

奉仕活動は自信を培う。

おやつをやめ食事を半分にして貯めた義援金

(インド孤児)

東日本大震災のニュースにインド孤児達はすぐに日本のお父さん・お母さんは無事であろうかと、とても心痛めてくれました。自分達に出来ることを考え、おやつを断ち、食事を半分にして貯めたその貴重なお金をインド小切手で、4万3793円を送ってくれました。



インド小切手

日本中の人が被害を受けた人達に何かをしたいと心痛めました。おやつをやめ、食事を減らしてまで被災者に心を寄せただろうか、自分の心に問いかけました。孤児の子供達の優しさに頭の下がる思いです。

日本のお父さん・お母さんの優しさが、インドでお世話して下さる方の優しさが、孤児の心を包んで育っていることを思いますと共に、里親の私達を超えて成長していることが嬉しく感謝の心で一杯です。「ありがとう」私達も頑張らねばの思いを新たにしました。又会える日を楽しみにしています。

心のケアを目的として

(2回目の訪問)

避難所の方々が、時間をもてあまし、今後を考え不安をつのらせておられます。何かに打ち込んでくる時は、そのことを忘れることが出来るということです。5月23日・25日、「住吉中学校の避難所」に行き、「心のケア」を目的として毛糸と棒針を持ちマフラーとエコたわしの編み方の指導(熱中でき、楽しめて、役立つもの)をしました。また、単行本とカラーボックスを寄贈し、傾聴ボランティアをしてまいりました。野菜ジュース・すいかも持参、お菓子と共に自衛隊の方々にも差し入れさせていただきました。

触れ合い

石巻住吉中学校を訪れたのは2度目です。前回訪ねた時、地震や

津波の恐ろしさを目の前で見て言葉を失い、今までがすべて当たり前で過ごしていたのだと思いましたが。あれから2か月たちましたがいまだ余震が続いて、どんなに不安な日々を送っているのだろうかと思いつながら避難所を訪れました。

今回は毛糸・本棚・本・お菓子・すいか等を持って行かせていただきました。前回持って行ったお花が正面玄関に元気に咲いていました。何もなかったようにすくすくと育っているのを見て花も生きていくのだと心を和ませてもらいました。



励ましのメッセージ

自衛隊の方々が避難所のお世話をしている姿を見て「お疲れさまです・お体に気を付けてください」と思いました。

避難されている皆様と一緒に編み物をして過ごさせていたいただきました。参加の方は「楽しいね」と言ってくださりあつという間に編まれる方・お年寄りの方は「女学校時代していたのよ」と懐かしそ

うに話ながら編んでいました。みなさんが時間を忘れたように楽しそうに編んでいる姿を見てこちらにも楽しませてもらいました。また逆に私達が教わったり、互いに教えあっている姿を見せていただきました。自然に互いを助け合う心が広がっているのだと思いました。

大変な事情で避難されている皆様に編み物の輪が広がり笑顔が取り戻せますように、そして一日もはやく普通の生活が出来るようにと心から願いました。(T・I)

石巻を訪問して

5月23日夜10時、ビニール袋に詰めた毛糸玉と西瓜とを積んだ車2台に12名が分乗して出発しました。途中雨が激しくなり、規則的に動くワイパーの音を聞いている内にいつしか眠ってしまいました。今回、同行させて頂くと決めた際、どのように被災者の方々に接して良いか分からず、分からないまま石巻にある住吉中学校の体育館に足を踏み入れた自分―皆様の後に付いて行くのがやっとでした。

「編み物をしませんか？」との呼びかけに数人が応じて下さり、針を動かしながら初めてことばを交わす事が出来た時、正直少しだけほっとしました。エコたわしとマフラーの講習でしたが、やはりお年を召され

た方の中にはとてもお上手な方がいらしてこちらが生徒となったりして場の雰囲気少しづつなごんでいった気がしました。しかしその後私には、自分から体育館のご自分の場所にいらっしやる方々の傍に行つて話しかける勇気は出ませんでした。お菓子を買って子供達に置いて行く為立ち寄ったスーパーの驚く程の商品の数々。



その後石巻港に行き、港に近づくにつれ道路はあるけれど、信号はぶら下がった状態、窓から写る無残な有様は想像を超えたものでした。水溜りから臭う異臭、この先梅雨に向かうと想像するだけで、意気消沈してしまいました。どこから手を付けて良いか判らぬ程の壊れ方に嫌という程津波の恐ろしさを見せつけられました。

帰宅して心の整理がつかないまま

見た夢はお弁当をお腹の上にのせて波にのまれ、あわやサメに食べられそうになり、「ウォー」と自分の声に飛び起きるといふ実に苦しい夢でした。

3月11日に自分が体験した揺れはもちろん初めての凄さでしたが、その後計画停電を経験することもなく日常生活をさせて頂いている私。かたや同じ日本人でありながら家はおろか、かけがえのない肉親を失った方々、震災がもたらしたあらゆる非日常を耐えながら、それでも生きてゆかなければならない人々に、とおりの慰めは通じません。震災以降「自分では何が出来るか、考えよう」と問いかけられる度に答えられず、幸い石巻に連れて行って頂く機会を得、自分の存在の小ささを認識しました。そして「一人の力は弱いけど、力合わせれば何か」というエルエンジェルズの歌詞がふとよぎり、会に入れて頂いた出会いを改めて感謝した次第です。

何も変わらない日常を送りながらも、以前の自分とは少しでも変われる事が出来たならと思っております。そして非日常を送っていらっしやる方々の存在をこれから先も決して忘れないでいたいと強く思いました。

(T・K)

眠れぬ夜

避難所となっている中学校の体育館に90歳を越えられた姉妹が寄り

そうようにおられました。

3人がやっと座れるぐらいの狭いスペースで、お隣りとの境界は自分たちの身の回りの荷物で区切られていました。血圧がとても高く、朝夕にお医者様が来られるとのことでしたが**夜も眠れない**と、とてもお辛そうでした。夜寝るときは体育館の床の上で毛布を敷布団とし、寝返りもままならない中、周りの話し声や物音、またこの先の不安などでどんなに辛く、長い夜かと思えました。とくに、お年を召された方には長い避難所生活が大変厳しいことかと思えました。

その日の夜、布団のなかで被災者の方々のことを思いますと、いつまでも眠ることができませんでした。畳の上でゆつたりと横になつている自分でしたが、申し訳ない思いにかられました。

三ヶ月以上にも及ぶ避難所生活で前回お会いした時より元氣のない様子に心が痛みました。一日も早く普通の生活に戻れるよう、そして夜ぐっすりお眠り頂きたくお祈りしたいと思います。

(T・S)



暑い夏を迎えるにあたって

(3回目の訪問)

6月13日〜15日、「住吉中学校の避難所」と、石巻市「小淵浜民宿『めぐる』の避難所」に行きました。

災害用の薄い毛布2枚の上で寝起きし生活している現実には、これから暑くなるのでタオルケットと敷きパットとエル・エンジェルロゴ入りのうちわに皆様の手書きのメッセージを書いていただき手渡しました。

支援物資や生活用品で雑然としているので、お年寄りでも移動に簡単な収納ケースをお届けしました。食事も毛布の上に食器をそのまま並べ、背中を丸くして召し上がっていましたので、収納ケースをテールブル代わりに使っていたみたいです。思いました。足の悪い年配の方々に、籐製のらくらく座椅子を、お持ちしました。

2回目の訪問の時、編み物をして
いる写真撮らせて頂き今回お持ち
いたしました。民宿『めぐる』は牡
鹿半島にあり、支援物資が届かない
ということでテレビ東京の「ガイア
の夜明け」で紹介されていました。
タオルケットと敷きパット、毛糸と
棒針を持参し「心のケア」を目的と
してマフラーとエコたわしの編み方
の指導をさせて頂きました。ミラー、
ソーイングセット、目覚まし時計に
スイーツデコの飾りつけもしました。

喜びの声を頂いて

六月に伺った石巻避難所で先回お
届けした毛糸を使って和服用にと素
敵なシヨールや帽子を編まれ、出来
上がった作品を嬉しそうに見せて下
さいました。窮屈な避難所の体育館
の中で、ひと時楽しく編み物をして
下さったのだと、とても嬉しくホッ
とした気持ちになりました。八十歳
を過ぎた高齢で座るのが困難、立ち
上がることもままならないとお聞き
していたので、今回は肘掛がついた
籐の座イスをお届けしました。申し
訳ないという思いが強く遠慮なさっ
ていましたが、とても嬉しそうでし
た。他のお年寄りの方々にもお渡し
しました。「座りっぱなしで身体がき
ついで、やむなく一日中寝ころん
でいるんだよ」と言われ皆様にとて
も喜んで頂けました。



肘掛椅子で身体が楽にな
りました

高齢の方にお配りさせて頂きまし
たけれど、ある程度年をとられた
方々も床に座りっぱなしはきついと
の要望がたくさんありましたが、車
に積む制限があり要望に答えきれず
心残りでした。

それほど皆様は身体も心も疲れは
てているのだと改めて身に沁みて思
いました。

尚、肘掛座椅子はF会社様で震災
の直後から各店舗に募金箱を設置し
大勢のお客様から協力頂いた義援金
の中から買わせていただきました。
ご協力感謝申し上げます。(S・I)

久しぶりの大笑い

石巻住吉中学校より車で一時間半
位の牡鹿半島民宿「めぐる」さんへ
伺いました。

約三十名ほどの方々が大広間に避
難されていました。車の中でクラク
シヨンを鳴らしながら流された人達
や屋根の上に乗ったまま流されてい
る人達を唯見ていることしか出来な
かった深い深い悲しみを話して下さ
いました。そんな状態の中で持って
いった毛糸でマフラーを編んで頂き
ました。「どんな風に編むんだっけネ
ー」と言いながらやはり編み出すと
懐かしそうに時間が経つのも忘れて
少し難しい毛糸で編みながら編み目
が増えたり、減ったりその度みんな
で大笑いをし、「こんなに笑ったのは
久しぶりだネー」と言いながら、大

笑いされていました。又、スイーツ
デコを見ると目を輝かせ「孫に作る
か」と一生懸命でした。はじめて見
はじめて作るスイーツデコにそれは
それは夢中でした。あんなに喜んで
頂けて本当に嬉しくなりました。

男の人達は浜でガレキの撤去中と
のことでした。「今は漁は出来ないけ
ど又きつと出来るようになるから」
と先に希望を持っていられました。

「今の時期はウニがおいしくてね、
生きたまま殻を開けて食べるんだよ、
きつと来年にはねー」と言われ「頑
張る、負けない」という思いが伝わ
りました。夏物の敷きパット・タオル
ケット・皆様から書いて頂いた心の
こもった応援メッセージのうちわ・
すいかなど喜んでいただけました。
エル・エンジェルボランティアの皆
様の義援金のお蔭で大勢の方々が喜
ばれています。そのお手伝いが出来
ることに感謝申し上げます。何が私
達に出来るか帰りのバスの中で思い
ました。考え中です。(S・I)



「めぐる荘」でスイーツデコ

石巻市牡鹿半島小湊浜カント地区
民泊めぐろ避難所を訪ねて

ここは、「震源地に一番近い牡鹿半島に位置しながらも行政から支援を見放された地区」としてTV放映された所で、津波に全部持っていかれた家から僅か数メートルしか離れていず、やや高台に建つ民泊「めぐろ」に到着したのは午前九時頃だった。迎えてくださった方のお話では、TVの放送後、一般人としてのボランティア訪問は我々が最初だという。

ここに身を寄せておられる方の数は減ったとは言え、今も25人程の方が「めぐろ」の宴会場で寝起きされている。家は津波から助かったとはいえず、建物を支える高台の石組みは崩れ落ち、2階の廊下は傾いていた。

そんな津波の爪跡が残る被災現場を、地鳴りの響きや、襲いかかる津波から必死に逃れようとするとする人々の叫び声を感じながら歩いてみた。流れ込んだ泥の水位跡が壁・扉に残っている或る家の仏間には、家族を守っていた仏様は無く、何れ戻ってくることを願ってか、お地藏様が祀られていた。電柱は根こそぎ倒れ、最後の最後まで「逃げる」と叫び続けたであろう防災無線放送用鉄塔は、首を折ったが如く民家の屋根に刺さるように倒れていた。「修理予定船」の貼紙も痛々しく岸に横たわる船。「家屋等を敷地内の瓦礫と一緒に撤去して下さい」と書かれた貼紙か

ら伝わる住人の悔しい叫び。そんな中「鯛を小脇に抱えた夷様」の彫り物や、子供たちの笑い・遊んでいたこと伺わせる「人形の足」、正にここは漁業生活の場であると感じざるを得なかった。そんな想いの中、壊れた漁業協同組合建屋の中を通過して港に出てみると、波がヒタピチャと船の腹を撫でる穏やかな光景が目と耳に入ってきた。波面は太陽にキラキラと輝き、これがあの恐ろしい出来事をもたらした海と同じとは！

この様な状況にも関わらず、避難所の人達に覇気を感じた。外で一仕事を終えて宿舎に戻ってきた男達の顔はすこぶる明るい。見知らぬ私たちを認めると、向こうの方から「こんにちは！」と声を掛けて下さる。瓦礫撤収も含めた我が町の復興を己の手で進めていることから来る前向きで力強い気持ちこそがそうさせるのだろ。家を守る女性達もすこぶる明るい。一緒に訪れた「Angel」の女性達が勧める「ミニチュア鏡や目覚まし時計をスイーツデコでの飾り」や、「マフラー編み」に、時には両手で顔を隠しながら、まるで娘の様にキャッキヤと笑い・楽しんでおられる。「嗚呼こんな笑い・楽しいのは久しぶりだわ」の声を聞いた時には「訪れてよかった・・・」と我々も嬉しくなつた。どんなに辛い時でも、打ちひしがれた時でも、心は明るく・笑顔を絶やさないとこの大切さをシミジミと感じた。(K・M)



防災無線用放送鉄塔



竿を流された 忍びす様



子供が遊んだ人形の脚も痛々しく



岸に押し流され修理を待つ漁船



住人の悔しい叫びが聞こえてきそうです



牡鹿半島 map

石巻避難所より お礼状をいただきました



この度の東日本大震災にあたり、励ましのお言葉や支援の物資を賜り、心より感謝申し上げます。
皆様の励ましを糧として、再建・復興を果たしてまいり所存です。今後とも、引き続きご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。
本来なら、直接ご挨拶を申し上げなければならないところ甚だ略儀ではございますが、書中をもちまして御礼申し上げます。

教具

平成23年7月

宮城県石巻市立住吉中学校避難所 一同
皆様の支援と心づかいに深く感謝しております。
この先も皆様方が幸せであります様に心より願っております。本当にありがとうございます。



石巻市立住吉中学校避難所の方よりお礼のハガキを頂きました。皆様よりお寄せ頂いたお心をお届けできましたことを嬉しく思いました。
まだまだ被災地は大変な状態の中でこのように私達にお心を寄せて頂き感謝申し上げます。被災者の方々が少しでも未来に希望を持って安心して過ごせる日が来ることを心よりお祈り申し上げます。

ボランティアの旅に参加して

(ネパール)

昨年十一月ネパール・ボランティアの旅へ初めて参加させていただきました。
かねてからは是非一度行ってみたいと思っていたネパールへボランティア

アとして訪ねることが出来るのは大きな喜びでした。

初日に訪れたエル・エンジェル校でレイを持った沢山の子供達が「ナマステ」と出迎えてくれた時には思わず涙してしまいました。その後も行く先々の学校で笑顔で迎えてくれた子供達のなんと可愛いらしいこと！日本の子供達に比べかなり小柄という印象でした。

空に手が届きそうな山の上にあるマヘンドラ校、ジープに揺られ山深く分け入ったナヤガン村のゴルメスリー校、ドリケル校での新校舎落成式と、どの学校でも子供達や村の人達が笑顔で出迎えてくれて、どれも私にとつて心温まる光景でしたが、ジープのドライバーさんが「この国の子供達に、今一番必要なものは教育なのだ」と声高く言った言葉に切実なものを感じました。

毎日配る肝油と牛乳で子供達の健康状態がかなり改善されたことを聞き、かつて日本でも戦後、子供達に肝油と牛乳が配られたことを思い、育ち盛りの子供達にとつて毎日のそれが、どんなに大切であるか改めて教えられたのです。

滞在最後の日、ナヤガン村の五年生の修学旅行では、ニッサ(女の子)と手をつなぎサル寺を駆け回り、カトマンズのデパートでショッピング

体験をしました。初めて見、体験するエスカレーターとエレベーターに子供達は大興奮。昼食時にしっかりとお代わりをし、デザートのアイスクリームを抱えうれしそうに食べていた姿は、常にしつかりと私の手を握りしめ離そうとしなかったニッサの手の温もりと共に一生忘れることはないでしょう。

日本にいたら考えもしなかったこんなに心温まる感動的な体験をネパールに行ったからこそ感じ取ることが出来たのです。ここで得た経験をこれからの生活に少しでも役立てていけたらと思っています。この機会を与えて下さったこと、そしてほとんど初対面の方々ばかりだったのに、大きく手を広げ優しく受け容れて下さった皆様に心から感謝いたします。

(H・K)



子供達と修学旅行です

二二二

「心のケア」を目的としてマフラーとエコたわしの編み方の指導を企画し、毛糸が必要と考えて

直接毛糸の製造・販売をしている後正産業(株)様に趣旨とお願いをいたしましたところ活動に賛同いただき、卸値で販売してくださいました。5月「住吉中学校の避難所」、毛糸1250個。6月「牡鹿半島「民宿『めぐろ』の避難所」毛糸210個。無理なお願いに快諾いただいただけでもありがたく思っております。ところがボランティアの被災地での活動の様子を後正産業(株)様のホームページで紹介したいとご連絡をいただきました。何かお役にたきたいと思う心を一歩踏み出した結果、後正産業(株)様の皆様のお役にたきたいと思っておられたお心と重なり、避難所の方々にとっても喜んでいただける企画が実行できましたこと、心よりお礼申し上げます。

エル・エンジェル校生徒の試験結果

本年度も十年生の生徒が国の試験を受けました。その結果が送られてきましたのでお知らせ致します。

家の手伝いをしなければならぬ生徒や勉強する環境が整っている生徒ばかりではないのに、今年度も皆が頑張り素晴らしい成績を収めてくれました

成績

特A 12人 A 13人 B 1人

エル・エンジェル校が建設される前の子供たちを思い出すと、教育の力と環境を整える大切さを実感いたします。今後ともよろしくお願い致します。

募集

ネパール・ボランティアの旅

十一月十三日(日) 羽田00・20発

十二月(土) 福岡11・40発

～

十九日(土) 成田06・15着

二〇日(日) 関空08・00着

エル・エンジェル校 (三三七名)

交流・技術大会

○golメスワリー校 (二六一名)

交流・5年生(十八名) 修学旅行

ドリケル校 (九二名) 交流

技術大会及び修学旅行引率に多くの

ボランティアさんが必要です。

ご参加をお待ち申し上げます。

詳細は、本部までお問い合わせください。

○ “共に助け合いたい”それが私たちの願いです。ご協力、よろしく願いいたします。

○ 支援金振込先 郵便口座 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル
記号 10290 口座番号 68107191
ゆうちょ銀行 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル
店名 (028) 店番 (028) 普通預金 口座番号 6810719
三菱東京UFJ銀行 口座名 特定非営利活動法人エル・エンジェル国際ボランティア協会
海老名支店(409) 普通預金 口座番号 0966597

支える会より

バザーのお礼

7月30・31日、東日本大震災支援バザーとして町田市成瀬台祭りに参加しました。午後4時からの開催でしたが、初日は7時に大雨が降り急遽中止になり、3時間と短い時間でした。2日めの開催も危ぶまれましたが、開催時刻には雨も上がって、2日間で、210,295円の売り上げがありました。諸雑費を除いて153,564円をエル・エンジェルへ寄付させていただきました。ボランティア便りを読んで手伝いに来てくださった皆様のお陰です。ありがとうございました。

バザー日程(予定)

10月2日 横浜青葉台フリーマーケット

10月23日 町田福祉園みのり祭

10月30日 町田第5小学校子ども祭り

11月5日 ぼっぼ町田

11月6日 町田介護施設フリーマーケット

秋はバザーの季節です。右記の日程でバザーを予定しています。新品雑貨・アクセサリー・手作り品・ビーズアクセサリー・新品衣類の寄付をお願い致します。子ども祭りを始めくじびきをたくさん作ります。くじびき用に遊戯王カード・ポケモンカード・本の付録・小さなぬいぐるみ、子どもが喜びそうなおもちゃ等も集めています。ご協力よろしくお願い致します。

編集後記

何かお役に立てればという気持ちで皆様が優しい思いをくださいます。被災地にエル・エンジェルの風をお届けしたいと思います。

(C・Y)